

7 トルコギキョウ自家苗管理方法の検討

○ 結果の要約

沖永良部地域における自家苗管理方法及び栽培データを整理できた。
「渚B」の自家苗は購入苗の35%、「ボレロホワイト」は28%の種苗費で生産が行えた（電気代、設備費を含めていない）。「渚B」は、購入苗と同等の品質で出荷が行えた。

1 課題の背景とねらい

沖永良部地域では、トルコギキョウの購入苗が輸送される9、10月に台風等の影響により船便が欠航し、苗の品質低下、または廃棄による品種の代替など苗の確保が安定しない年がある。また購入苗は高価であり、自家育苗が行えるようになれば種苗費低減につながる。

そこで、冷房を使用しないハウスで管理する育苗で実証を行い、自家苗生産のための管理方法及び栽培データ（温度、照度、かん水回数）を整理し、自家苗普及のための基礎データとする。

2 関係機関団体との連携、役割分担等

園振協沖永良部支部花き技術部会及び各町技連会花き部会と連携し取り組んだ。

3 実証内容

- (1) 実証場所 知名町芦清良〇氏ほ場
- (2) 供試品種 渚B、ボレロホワイト
- (3) 耕種概要
 - ア 播種 令和3年7月9日
 - イ 種子冷蔵 令和3年7月9日～8月13日(35日) 冷蔵温度：7℃
 - ウ 育苗期間 令和3年8月13日～10月3日(51日)
 - エ 定植 令和3年10月3日
- (4) 試験区の構成
 - ア 対照区 購入苗（渚B、ボレロホワイト）
 - イ 実証区 自家苗（渚B、ボレロホワイト）
- (5) 調査項目
栽培管理方法、ハウス内温度、歩留り、資材費、収穫調査（購入苗との比較）

4 結果及び考察

- (1) 施設内照度
管内農家の技術を参考にした寒冷紗二重被覆でも、トルコギキョウの育苗に必要な照度（10,000Lux以上）が確保でき苗を生産できた。

表1 自家苗管理実証ハウスの概要

項目	内容
遮光	寒冷紗(#6100)を二重に設置
照度	20,000Lux以上 (晴天時、正午頃)
換気	サイドを開放
かん水	ミストかん水 ・育苗開始から発芽まで 30分/回 (朝・昼・夕) ・発芽以降 30分/回 (朝・夕※晴天、雨天で調整)



写真1 自家苗管理実証ハウス



写真2 渚B

ボレロホワイト

(2) ハウス内温度

実証ハウスは小規模（6㎡）であるため、換気により速やかに温度を下げる事ができるので、35℃以上の高温にならず温度変化の幅が小さいことが分かった。一方、一般的な規模（150㎡）のビニールハウス内の温度を見ると、サイドを開放しても35℃以上の高温になることが分かった。35℃以上の高温になると、品種によってはロゼット等の生理障害が懸念されるため、無冷房管理でも育苗しやすい品種の選定が必要である。

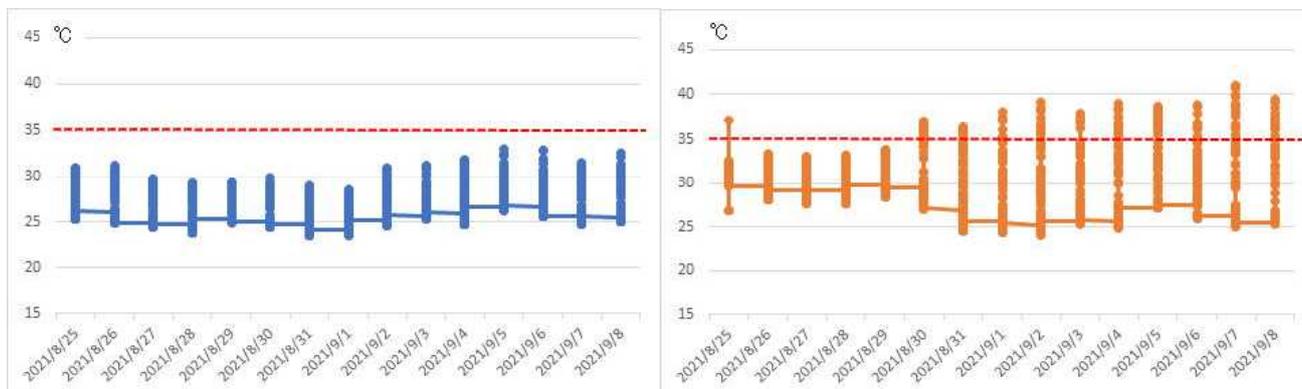


図1 実証ハウス内温度

※他生産者の育苗ハウスで測定
参考 一般的な規模の育苗ハウス内温度

(3) 歩留り

水がかかりにくい部分に欠株が目立ち、自家苗の歩留りは「渚B」は57%、「ボレロホワイト」は71%であった。

表2 品種別自家苗歩留り

品種	定植可能数 (全7トレイ中)	歩留り (%)
渚B	4	57
ボレロホワイト	5	71



写真3 生育不良(乾燥)

(4) 種苗費比較

自家育苗に使用した資材を整理した結果、ハウス、寒冷紗、種子冷蔵のための冷蔵庫等の設備が必要になるが、資材だけで比較すると、自家苗の種苗費は購入苗の2割であった。

さらに歩留りを加味して計算すると、「渚B」の種苗費は購入苗の35%、「ボレロホワイト」は28%であった。

表3 資材一覧

資材	内容	価格
種子	3,000粒 (7トレイ分)	9,405円
培養土	ネギキング40L (14トレイ分)	4,010円
トレイ	406穴トレイ ※再利用	0円
播種機, 鎮圧板	裸の王様シリーズ (阪中緑化資材) 耐用年数5年	49,500円



写真4 鎮圧板

表4 10a当たりの種苗費 (定植本数 20,000本・53トレイ/10a)

	種子	培養土	播種機, 鎮圧板	合計	同左比 (%)
自家苗	71,210円	15,180円	9,900円	96,290円	20.2
購入苗	—	—	—	477,000円	100.0



写真5 播種機

表5 品種別種苗費

	歩留り (%)	10a当たり	同左購入苗比 (%)
渚B	57	168,930円	35.4
ボレロホワイト	71	135,620円	28.4

(5) 収穫調査

収穫期は、実証区「渚B」、対照区「渚B」「ボレロホワイト」が同時期であり、実証区「ボレロホワイト」は4日遅れた。

切花長は、実証区「渚B」、対照区「渚B」「ボレロホワイト」は平均70cm以上あったが、実証区「ボレロホワイト」は66cmと短かった。

切花重、有効側枝数、花径は2品種の実証区、対照区ともに同等であった。

有効花蕾数は2品種ともに実証区が4、対照区が5であり対照区の方が多かった。

出荷割合は2品種とも、4輪以上の割合が対照区は80~90%であるのに対し、実証区は70%と低かったが、70%が確保されているので問題はない。

切花長70cm以上の割合は実証区「渚B」、対照区「渚B」「ボレロホワイト」は85%以上あるのに対し、実証区「ボレロホワイト」は30%と低かった。

表6 1月出し収穫調査

品種	区	収穫期	切花長 cm	切花重 g	有効 側枝数	有効 花蕾数	花径 cm	出荷割合(%)			
								5輪	4輪	3輪	切花長 70cm以上
渚B	実証区： 自家苗	1/26	74	54	2	4	8	30	40	20	85
	対照区： 購入苗	1/26	79	56	2	5	7	50	30	10	100
ボレロホワイト	実証区： 自家苗	1/30	66	61	2	4	7	40	30	20	30
	対照区： 購入苗	1/26	76	53	2	5	7	50	40	10	95

(6) まとめ

自家苗管理方法及び栽培データを整理できた。

「渚B」の種苗費は購入苗の35%、「ボレロホワイト」は28%であった。

「渚B」の自家苗は、購入苗と同等の品質で出荷が行えたが、「ボレロホワイト」の自家苗は購入苗より切花長70cm以上の出荷割合が低かった。

今後3月以降に二度切りを行うため、再度収穫調査を実施し、品質を比較する。



写真6 自家苗「渚B」

購入苗「渚B」

自家苗「ボレロホワイト」

購入苗「ボレロホワイト」

5 残された課題と対応

(1) 沖永良部地域自家苗栽培マニュアルの作成

(2) ペーパーポットを使用した育苗実証

6 執筆者 本山 美月